

地域医療連携室 だより

宮城県立がんセンター
MIYAGI CANCER CENTER

平成21年11月25日発行



発行 地域医療連携室
TEL (022)384-3151
FAX (022)381-1169



宮城県立がんセンター 近況報告

院長 西條 茂

政権が自民党から民主党になり、様々な事に変化が見られ始め、テレビや新聞を賑わせています。来年4月は2年毎の診療報酬改訂時期にあたり、厚労省は中医協を改変する動きです。いずれにしても医師にとって良い方向性がみえる改革であってほしいと願うのみです。

さて、がんセンター地域連携室便り第9号をお届けいたします。

まず皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。放射線照射機器の更新が予定通り無事済みまして、11月16日から稼動いたします。いわゆるリニューアルオープンです。この間、照射は1台で夜遅くまで稼動しておりましたが、今後は以前通り2台での稼動となりますのでご紹介のほど宜しくお願いいたします。

医師のほうでは婦人科に藤田先生、呼吸器外科に阿部先生、泌尿器科に櫻田先生、整形外科に北原先生、乳腺科に櫻井先生を迎えました。

また国立がんセンター東病院消化器科から金先生、愛知がんセンターから血液内科に井根先生が赴任し新たな活躍が期待されます。

最近相談支援センターでの仕事が増加しておりその重要性が増しております。患者さんからの相談事、家族の悩み、経済的問題などがんに関わる相談事だけでも電話相談と合わせますと年間4千件にもなります。支援センター長には前院長の松田先生にお願いしていますが、看護部管理職、MSW、医事班、元病院事務局長等、種々の相談に備えて多職種で対応しております。クレームへの対応をする場面もあり、がんという病気、病院の事情などに精通している職員が対応する必要があり、今後その役割が大変重要になってくると思われます。

がんセンターとしてのおめでたい話題としては、総長の菅村先生が今年度の野口英世記念医学賞を受賞されたことです。先生は今後「ヒトがん幹細胞の研究」を当センター研究所で行う計画で、現在着々と準備を進めております。

県知事も続投が決まり平成23年度には当センターも含め県立3病院が、非公務員型の独法化になります。これから独法化に向けての準備も始まりますが、患者さんへのよりよいがん医療の提供、新しい治療への開発と挑戦を目標に職員一同のレベルアップを図って参りたいと思っています。

皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

セカンドオピニオンについて

当センターでは、事前の申込みによりセカンドオピニオンの提供を行います。
セカンドオピニオンとは、主治医以外の意見を聞くことにより、患者さん御自身が治療方法を自己決定するのに役立てていただくものです。
そのため、セカンドオピニオンでは治療・検査等は行わず、患者さんがお持ちになった診療情報提供書・レントゲンフィルム等の資料をもとに当センターの専門医が意見を申し上げます。
なお、セカンドオピニオンは当センターでの治療や転院につながるものではありませんので、当初より当センターでの診察をご希望される場合は、その旨の紹介状をお持ちになって初診の申込みをお願いします。

担当医紹介



■ 消化器科
小野寺 博 義

本来の専門は肝胆膵の画像診断と超音波検診です。医療分野の細分化・専門化に伴って現在は肝疾患をメインに肝細胞癌の治療（TAE、PEIT、RFA、UFT-Eによる化学療法等）とC型肝炎に対するインターフェロン治療による発がん予防を主に行っております。また、慢性肝疾患の管理検診による肝細胞癌の早期発見にも取り組んでおります。
セカンドオピニオンに際しては、今までのデータと最新の情報に基づき説明いたします。



■ 消化器科
鈴木 雅 貴

胆膵疾患、特に胆嚢癌、胆管癌、膵癌についてのセカンドオピニオンを担当させていただいております。各々の癌の手術の可否に関する進展度診断、手術不能と考えられる場合の補助療法、また疼痛管理等につきまして、患者様、御家族にも充分納得していただけるような説明をしていきたいと考えております。



■ 消化器科
内 海 潔

主に大腸がんを含めた下部消化管疾患についての画像診断・内視鏡治療を担当しています。特に大腸がん診断では、色素・拡大内視鏡検査や超音波内視鏡検査をもちいながら正確な深達度（がんの深さ）・進展度（がんの広がり）診断を常に心がけており、病期（病気の時期）に応じたさまざまな治療法の選択に有用な情報を提供できると考えています。治療では大腸腫瘍の内視鏡的切除を行っていますが、さらに外科治療・化学療法については専門科と連携して個々の患者様に最善と思われる治療を提案いたします。セカンドオピニオンを求めている方には、治療への不安が除かれるよう、わかりやすい説明を心がけております。



■ 消化器科
野 口 哲 也

上部消化器管（食道・胃・十二指腸）の疾患について診断・治療を行っております。拡大内視鏡検査、超音波内視鏡検査など各種術前検査や内視鏡的粘膜切除・剥離術をはじめ、食道ステントや拡張術などの癌に対する内視鏡治療を行っております。また、進行胃癌に対する化学療法など、さまざまな診断・治療を行っております。診断や手術の適応、治療法など、迷われている点、不安を感じられる点、不明な点などお答えできればと思っております。



■ 血液内科
佐々木 治

血液疾患のセカンドオピニオン外来を担当しています。白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの治療は、骨髄移植や分子標的療法なども含め日々進歩しています。標準治療とされるものはありますが、病型や年齢、合併症などによるバリエーションも大きく、治療方針に迷うことは少なくありません。私たちの知識とこれまでの経験を総動員してセカンドオピニオンの期待に応えられるよう尽力したいと思います。どうぞご紹介ください。



■ 化学療法科
村 川 康 子

主に胃・大腸癌などの消化器癌、および原発不明癌に対する抗がん剤治療に関するセカンドオピニオンを担当しています。最近は分子標的薬などの新しい薬剤も多く開発され、治療法が多岐に亘り複雑となっております。当科では抗がん剤の治療効果を副作用も含めて十分に説明いたします。また、緩和ケア病棟を含む緩和的治療について説明することも可能です。



■ 呼吸器科
小 犬 丸 貞 裕

私は肺がんの内科的治療を中心に約30年間治療してきましたが、ここ十数年、がん告知の一般化、インフォームド・コンセントの普及、インターネットに代表される誰でもアクセス可能な情報量の増大など、がん診療を取り巻く環境は激変しました。それら情報の奔流に飲み込まれ右往左往する患者、家族も少なくありません。そこで急速に変化する肺がん治療につき、最新の根拠ある情報に基づきながら、分かりやすい説明が出来るように努めています。



■ 呼吸器外科
小 池 加 保 児

呼吸器外科。がんになった患者と家族の方々が見実を受け入れたくないと思うことがあります。この様な時セカンドオピニオンが有力です。私の所に来られた方々は、自分の不運を訴える方、診断の間違えだと疑問を持つ方、どんながんでも最善の治療を受ければ必ず治ると信じている方、等いろいろです。殆どの場合、主治医の先の方の治療方針は間違っていないです。セカンドオピニオンは患者家族の方々に納得していただける良い方法だと思います。



■ 乳腺科
角川 陽一郎

日本における乳癌の罹患率・死亡率はともに増え続けています。当センターでは乳癌の診断、初期治療（手術・化学療法・内分泌療法・放射線療法等）、再発後の治療を行っています。乳癌のできた場所や広がり、年齢、癌の性格、再発後の治療の状況などによりいくつかの選択肢がある場合があります。乳腺科に訪れるセカンドオピニオンの方に対しては、お知りになりたいことをよく伺った上で、なるべくわかりやすい説明を心がけています。



■ 総合外科
椎葉 健一

私はがんセンターに着任して4年が経過しました。着任前は約二十年間、東北大学病院で胃癌、大腸癌、乳癌の診療、研究に携わって参りました。大腸癌とくに直腸癌の手術経験が豊富なため、当センターでは大腸癌を専門領域として活動しております。セカンドオピニオン外来では主に大腸癌の担当となりましたが、消化器癌全般に精通しておりますので、何でもご相談ください。



■ 外科
藤谷 恒明

胃癌を担当しております。「後医は名医」との言葉がありますように後から診療を担当する方が前医の経験が参考になりますのでよりの確な判断が可能となります。しかし、今までの患者様の多くは既に様々な標準的な治療を受けており更に特別な治療を求めて訪れる方でしたので、現在受けている治療は最良であることを説明し納得していただいております。患者様の率直な考えが聞ける場として利用しつつ、ここでの経験を自分の診療にも役立てております。



■ 整形外科
村上 亨

骨腫瘍、軟部腫瘍を担当しています。悪性骨・軟部腫瘍（肉腫）は、その発生率が低いため、医療側が治療経験を蓄積することが難しい疾患です。その上、身体のあらゆる部位に発生するため、これらの腫瘍に対して適切に治療することは必ずしも容易ではありません。主治医とよく相談してもなお疑問が残る場合はセカンドオピニオンを利用してください。最新の医療情報と経験をもとに、できるだけ納得できる説明をしたいと思っています。



■ 脳神経外科
片倉 隆一

脳腫瘍全般を扱っておりますが、中心となるのは悪性脳腫瘍です。すなわち、神経膠腫（グリオーマ）、脳に発生したリンパ腫（中枢神経系悪性リンパ腫）そして転移性脳腫瘍などの症例を多く治療しております。セカンドオピニオンでは、悪性脳腫瘍だけでなく良性の脳腫瘍についても相談に応じていますのでご紹介ください。



■ 頭頸科(耳鼻いんこう科)
松浦 一登

頭頸部がんの治療では生命予後が最も重要ですが、併せて頭頸部機能の温存（摂食・嚥下、呼吸・構音、味覚・嗅覚などの機能と顔貌）も重要であり、当科での治療方針としてこれらの両立を高いレベルでおこなうことを目標としています。豊富な症例経験があり、特に喉頭温存手術や超選択的動注化学放射線療法は全国トップレベルの水準にあります。各々の患者さんの状況に応じた治療法についてコメントできると思います。



■ 婦人科
田勢 亨

患者さんの病状と希望に沿った婦人科がん治療を行なうことを目指しています。日本産科婦人科学会専門医・日本臨床細胞学会細胞診専門医・日本婦人科腫瘍学会専門医・臨床修練指導医・日本がん治療認定医などの資格を有しています。婦人科がんの診断・治療について最先端の知識・技術をもち、婦人科のガンでお悩みの患者さんやご家族の方々に充分なセカンドオピニオンを提供できていると思っています。



■ 泌尿器科
栃木 達夫

尿路性器癌の診断と治療が専門です。当科で最も多いのは前立腺癌で、以下膀胱癌、腎細胞癌と続きます。前立腺癌の根治的治療として前立腺全摘術や根治的外照射を積極的に行っています。前立腺全摘術の手術件数は県内でも常に1~2番目の多さです。浸潤性膀胱癌の場合、患者さんの年齢やP.S.に応じて術前に化学放射線同時併用療法を行い治療成績の向上に努めています。腎細胞癌の手術適応例には根治的腎全摘術や部分切除術を行っています。



■ 放射線治療科
松下 晴雄

放射線治療の方法に関してはガイドラインが策定されており治療の標準化が進められていますが、その治療が可能かどうか各施設の装置に左右されることがあります。特に定位照射、小線原治療、組織内照射、IMRT（強度変調放射線治療）、粒子線治療などの特殊照射は行える施設が限定されます。ここで、どのような治療が行えるのかなど、また、その他放射線治療一般で不明な点、不安なことなどございましたらご相談下さい。

❀ セカンドオピニオン外来予約の案内 ❀

申し込み方法：電話で予約受付いたします（その際は「セカンドオピニオン」であることをお申し出願います）

受付時間：月曜日～金曜日
午前9時～午後5時（土・日・祝日及び年末年始を除く）

費用：10,500円
申し込み先：宮城県立がんセンター
電話 022-384-3151（代表）

*ご本人の受診が原則ですが、同意書をお持ちいただければご家族でも受診可能です
尚、予約受付の際に患者さんの状況や相談内容等についてお伺いいたします
予めご了承ください

外来新患診療体制表 平成21年11月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科		●	●	●	●	●
内科	血液内科	●	●	●	●	●
	循環器科	●		●	●	
	化学療法科	●		●		
呼吸器科		●	●	●	●	●
外科	乳腺科	●		●	●	
	整形外科	●	●	●	●	●
脳神経外科		●		●		●
頭頸科(耳鼻いんこう科)		●	●		●	
形成外科			●			●
婦人科		●	●		●	
泌尿器科		●		●	●	
放射線科		●	●		●	●
緩和医療科				●		●

診療受付時間：午前8時30分～11時00分までをお願いします。
TEL (022)384-3151(代) FAX (022)381-1169

宮城県立がんセンターセミナーのご案内

●第188回

- 演題：「非小細胞性肺癌におけるEGFR遺伝子変異とEGFR-TKI治療」
- 演者：前門戸 任 先生
宮城県立がんセンター 呼吸器内科
- 日時：平成21年12月9日(水)
17:30～19:00
- 場所：宮城県立がんセンター 大会議室



肺癌は日本人の年間死者数が5万人を超え、化学療法に抵抗性な難治性固形腫瘍の代表である。肺癌においてはこれまで幾つかの遺伝子変異が示され、発癌に関与することや治療の標的となりうるということが報告されてきた。なかでも多くの悪性腫瘍で過剰発現が報告されている上皮増殖因子受容体(EGFR)については、特に肺癌でEGFR遺伝子に変異があることが明らかとなった。非小細胞肺癌に対する初の分子標的治療剤として世界に先駆けて日本で承認された薬剤であるゲフィチニブは、そのEGFRのチロシンキナーゼ(TK)阻害を作用機序としており、肺癌治療において重要な役割を担ってきている。このゲフィチニブの奏効例では肺癌のEGFRのTK領域において遺伝子変異が多いことが報告され、このEGFR遺伝子変異が治療効果予測因子として臨床の場で広く認識されるようになった。当施設ではこの肺癌細胞のEGFR遺伝子変異検査に早くから着手しその結果について概説するとともに、もう一つのEGFRチロシンキナーゼ阻害剤(EGFR-TKI)であるエルロチニブが使用可能となり、二つの薬剤の違いについて当科の臨床データをもとに考察する。また、EGFR-TKI耐性患者への対策として当科と研究所で共同して行っている試みについても紹介する。

交通案内

- J 桜交 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
 - R 南交 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
 - 自家用車 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
- 仙台南インターからは、国道286号バイパス經由 県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

○受付 午前8時30分～午後5時15分
○TEL (022) 384-3151(代) 内線115
○FAX (022) 381-1169

宮城県立がんセンター

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
電話(代表) (022)384-3151 FAX(総務班) (022)381-1168

ロゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。

